

平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月8日

上場取引所 東

上場会社名 ユニバーサルソリューションシステムズ株式会社
 コード番号 3390 URL <http://www.u-s-systems.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 伊奈 聡

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 牧島 明

四半期報告書提出予定日 平成25年11月8日

TEL 03-6892-3864

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	1,573	62.6	193	—	190	—	166	—
25年3月期第2四半期	967	△62.0	△198	—	△193	—	△394	—

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 177百万円 (—%) 25年3月期第2四半期 △391百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	3.61	—
25年3月期第2四半期	△10.29	—

(注) 当社は、平成25年10月1日付で1株につき100株の割合で株式分割を行っております。平成25年3月期第2四半期の1株当たり四半期純利益につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し算出しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第2四半期	1,213	212	8.7	2.30
25年3月期	646	△19	△9.3	△1.31

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 105百万円 25年3月期 △60百万円

(注) 当社は、平成25年10月1日付で1株につき100株の割合で株式分割を行っております。平成25年3月期の1株当たり純資産につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し算出しております。

2. 配当の状況

	年間配当金					合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

26年3月期の配当につきましては、未定であります。配当については、決定次第速やかにお知らせいたします。

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,000	62.2	200	—	195	—	180	—	3.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

連結業績予想の修正については、平成25年11月7日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 2社 (社名) 株式会社ビューティーホールディングス、除外 1社 (社名)
株式会社ベストリザーブ

(注) 当四半期連結累計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。
詳細は、[添付資料]P. 4「当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期2Q	45,983,200 株	25年3月期	45,983,200 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年3月期2Q	— 株	25年3月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	45,983,200 株	25年3月期2Q	38,336,100 株
----------	--------------	----------	--------------

(注) 当社は、平成25年10月1日付で1株につき100株の割合で株式分割を実施しております。上記の株式数につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し算出しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

<業績の概況>

当第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日～平成25年9月30日)における我が国経済は、政府による各種政策の実施に伴い、個人消費の緩やかな持ち直しや円相場の安定的な動きが見られるなど各局面で景気の回復基調が窺えました。しかしながら新興国経済の鈍化等をはじめとした世界経済の動向には引き続き留意が必要とされるなど、景気下振れのリスクは依然として残る状況の中推移いたしました。

このような事業環境のもと、当社グループは、飲食事業者向けASPサービスや、スマートフォン・タブレット端末を利用したPOSシステムの販売を中心に、お客様のニーズにお応えする総合的なソリューション提案を行ってまいりました。

また第1四半期連結会計期間より、集客・予約サービスなどの面で既存事業とのシナジーが発揮できる美容業界とホテル業界という新たな事業領域に進出いたしました。さらに、スマートフォンを中心とした携帯電話等の販売も堅調に推移いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は1,573百万円(前年同期比62.6%増)となり、営業利益193百万円(前年同期は営業損失198百万円)、経常利益190百万円(前年同期は経常損失193百万円)、四半期純利益166百万円(前年同期は四半期純損失394百万円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、前連結会計年度をもって「人材事業」からは撤退しており、また、第1四半期連結会計期間より、従来の「システム事業」と「直販事業」に加え、新たに予約サイトの運営などのサービスを提供する「メディア事業」を展開していることから、これら3事業を報告セグメントとしております。

①システム事業

システム事業セグメントは、飲食事業者向けのASPサービスや、スマートフォン・タブレット端末を利用したPOSシステムの販売を中心に、店舗運営をサポートするソリューション提案を行っております。飲食店向けに販売情報を収集して分析するPOS・オーダーエントリーシステム「ダイニングPOS」並びに「ダイニングレジスター」や、店舗情報を複数のグルメサイトに一括掲載・更新ができる「店長なび」等の販売に注力してまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は618百万円(前年同期比69.0%増)、セグメント利益は151百万円(前年同期比206.0%増)となりました。

②メディア事業

メディア事業セグメントは、美容業界やホテル業界に特化した予約サイトの運営や広告サービスを行っております。国内の宿泊予約サイト「ベストリザーブ・宿ぷらざ」では、積極的な広告投資による顧客の呼び込みを図っており、同サイトへの掲載社数が堅調に推移しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は334百万円、セグメント利益は40百万円となりました。

③直販事業

直販事業セグメントは、主にスマートフォンを中心とした携帯電話端末や周辺機器・モバイルデータ通信端末の販売を行っております。昨今は、高速データ通信網の普及が進み、サービス競争もますます激しさを増しておりますが、独自のサービス展開により、スマートフォンを中心とした携帯電話等の販売数が堅調に推移いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は627百万円(前年同期比25.4%増)、セグメント利益は77百万円(前年同期はセグメント損失96百万円)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①総資産、負債及び純資産

	前連結会計年度末	当第2四半期連結会計期間末	増減
	百万円	百万円	百万円
総資産	646	1,213	567
負債	665	1,001	335
純資産	△19	212	232

総資産は、主に現金及び預金の増加により、前連結会計年度末に比べて567百万円増加し、1,213百万円となりました。

負債は、主に長期借入金の増加により、前連結会計年度末に比べて335百万円増加し、1,001百万円となりました。

純資産は、主に四半期純利益166百万円を計上したことにより、前連結会計年度末に比べて232百万円増加し、212百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、以下に記載のキャッシュ・フローにより404百万円となり、前連結会計年度末に比べ331百万円増加いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は203百万円（前年同期は164百万円の減少）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益199百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は15百万円（前年同期は349百万円の増加）となりました。これは主に連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出49百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の増加は143百万円（前年同期は372百万円の減少）となりました。これは主に、長期借入れによる収入233百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成25年8月8日に公表いたしました連結業績予想を修正しております。詳しくは、別途公表致しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、新たに株式を取得した株式会社ビューティーホールディングス及びその子会社である株式会社アップヒルズ並びに株式会社ベストリザーブを連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

(事業等のリスク)

当社グループは、前連結会計年度において継続的に営業キャッシュ・フローのマイナスとなり、継続して営業損失及び当期純損失を計上した結果、前連結会計年度末は債務超過となったため、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況となっております。当第2四半期連結累計期間においては、既存事業の見直しと新たな事業領域での事業基盤構築による収益の確保によって損益が改善し、債務超過を解消しております。しかしながら業績が回復して間もなく、経営基盤の再建途上であると判断していることから、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在していると認識しております。

当該重要事象等を解消すべく、当社グループでは下記の対応策を実施することにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

①新規事業領域の開拓による収入源の確保

当社グループは、飲食業界を中心にシステム開発・運営を軸にしたサービス提供を行ってまいりましたが、今後の収益拡大を目指すに当たって、飲食業界だけではなく新たな事業領域の開拓が必要不可欠であるとの認識から、美容ポータルサイトなどを運営する株式会社ビューティーホールディングス及び宿泊予約サイト「ベストリザーブ・宿ぷらざ」を運営する株式会社ベストリザーブを連結子会社といたしました。株式会社ビューティーホールディングス及び株式会社ベストリザーブがそれぞれ保有するメディアサイトにて集客や予約サービスの提供を行っており、当社グループの新しい収益源となっております。

また、連結子会社である日本企業開発支援株式会社では、同社が運営する起業家支援サイト「独立支援.net」の運営及びスマートフォン、タブレット端末等の販売を行っており、当社グループの既存事業の販売網拡大にもつながっております。

今後はさらに、当社グループがこれまでに築きあげてきたスマートフォンやタブレット端末を用いたソリューションサービスを、これら新規事業領域へと展開していくことで、当社グループ全体の収益向上となることを期待しております。

②既存事業の見直し

当社グループは、選択と集中により既存事業の見直しを行う中で、大手飲食事業者向けに売上管理・受発注・予約・顧客管理業務を行うASPサービス事業を譲渡いたしました。その結果、システム事業においては中小型店向けのソリューションに経営資源を集中し、他の事業とのシナジーを発揮する事ができるため、収益の拡大が見込めるものと判断しております。

③コストの削減

事業規模に見合った人員体制を維持するとともに、引き続き諸経費削減の取組みを徹底してまいります。

④資金調達

当面の運転資金は確保できておりますが、親会社である株式会社光通信に対して当社グループの状況を適時に報告して良好な関係を維持し、同社からの継続的な財務支援が得られるよう、資金繰りの安定化に努めてまいります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	72	404
売掛金	319	460
たな卸資産	0	2
その他	77	103
貸倒引当金	△7	△10
流動資産合計	463	960
固定資産		
有形固定資産	18	47
無形固定資産		
のれん	50	80
その他	41	44
無形固定資産合計	92	124
投資その他の資産		
投資有価証券	34	9
破産更生債権等	184	201
その他	36	71
貸倒引当金	△184	△201
投資その他の資産合計	71	80
固定資産合計	182	252
繰延資産	0	0
資産合計	646	1,213
負債の部		
流動負債		
買掛金	97	86
1年内返済予定の長期借入金	107	136
未払金	237	343
未払法人税等	12	28
賞与引当金	9	21
ポイント引当金	—	6
その他	16	79
流動負債合計	481	701
固定負債		
長期借入金	181	296
その他	2	2
固定負債合計	184	299
負債合計	665	1,001
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,454	1,454
資本剰余金	1,973	1,973
利益剰余金	△3,488	△3,322
株主資本合計	△60	105
少数株主持分	40	106
純資産合計	△19	212
負債純資産合計	646	1,213

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	967	1,573
売上原価	623	778
売上総利益	343	794
販売費及び一般管理費	541	601
営業利益又は営業損失(△)	△198	193
営業外収益		
貸倒引当金戻入額	—	5
その他	19	1
営業外収益合計	19	6
営業外費用		
支払利息	11	8
その他	4	0
営業外費用合計	15	9
経常利益又は経常損失(△)	△193	190
特別利益		
投資有価証券売却益	2	6
子会社株式売却益	15	—
事業譲渡益	20	—
負ののれん発生益	—	3
特別利益合計	38	9
特別損失		
投資有価証券売却損	8	0
のれん償却額	213	—
その他	15	—
特別損失合計	237	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△392	199
法人税、住民税及び事業税	3	21
法人税等合計	3	21
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△395	177
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△1	11
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△394	166

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△395	177
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	—
その他の包括利益合計	3	—
四半期包括利益	△391	177
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△390	166
少数株主に係る四半期包括利益	△1	11

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△392	199
減価償却費	35	17
のれん償却額	257	10
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2	△4
賞与引当金の増減額(△は減少)	11	9
受取利息及び受取配当金	△2	△0
支払利息	11	8
子会社株式売却損益(△は益)	△15	—
事業譲渡損益(△は益)	△20	—
売上債権の増減額(△は増加)	208	△28
たな卸資産の増減額(△は増加)	△8	△1
仕入債務の増減額(△は減少)	△90	△11
未払金の増減額(△は減少)	△122	△17
その他	△35	39
小計	△167	220
利息及び配当金の受取額	4	0
利息の支払額	△8	△7
法人税等の支払額	△9	△10
法人税等の還付額	16	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	△164	203
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△0	△15
無形固定資産の取得による支出	△24	△8
投資有価証券の売却及び償還による収入	148	38
子会社株式の取得による支出	—	△18
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	121	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	1	50
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△49
事業譲渡による収入	20	—
長期貸付金の回収による収入	81	—
その他	2	△14
投資活動によるキャッシュ・フロー	349	△15
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△40	—
長期借入れによる収入	—	233
長期借入金の返済による支出	△332	△90
財務活動によるキャッシュ・フロー	△372	143
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△187	331
現金及び現金同等物の期首残高	311	72
現金及び現金同等物の四半期末残高	123	404

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム 事業	人材 事業	直販 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	360	106	500	967	—	967
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	5	0	0	6	△6	—
計	365	107	500	973	△6	967
セグメント利益 又は損失(△)	49	△42	△96	△88	△109	△198

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△109百万円は、セグメント間取引消去6百万円、各セグメントに配分していない全社費用△115百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	システム 事業	メディア 事業	直販 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	611	334	627	1,573	—	1,573
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	6	0	0	6	△6	—
計	618	334	627	1,580	△6	1,573
セグメント利益	151	40	77	269	△76	193

(注) 1 セグメント利益の調整額△76百万円は、セグメント間取引消去△0百万円、各セグメントに配分していない全社費用△76百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「人材事業」を廃止し、「メディア事業」を新たに追加しております。これは、前連結会計年度において「人材事業」から撤退したこと、第1四半期連結会計期間に株式会社ビューティーホールディングス及び株式会社ベストリザーブを連結子会社としたことに伴い、当該連結子会社が営む「メディア事業」に進出したことによるものであります。

以上の結果、第1四半期連結累計期間より「システム事業」、「メディア事業」及び「直販事業」の3つを報告セグメントとしております。

(重要な後発事象)

(株式分割及び単元株制度の採用)

当社は、平成25年5月28日開催の取締役会決議に基づき、平成25年10月1日付で以下のとおり株式分割及び単元株制度を採用しております。

(1) 株式分割及び単元株制度の採用の目的

平成19年11月27日に全国証券取引所が公表した「売買単位の集約に向けた行動計画」の趣旨を鑑み、当社株式を1株につき100株の割合で分割するとともに、100株を1単元とする単元株制度を採用するものであります。

(2) 株式分割の概要

①分割の方法

平成25年9月30日を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式を、1株につき100株の割合で分割しております。

②分割により増加する株式数

株式分割前の発行済株式総数	459,832株
株式分割により増加する株式数	45,523,368株
株式分割後の発行済株式総数	45,983,200株
株式分割後の発行可能株式総数	137,049,600株

③分割の日程

基準日設定公告日	平成25年9月13日
基準日	平成25年9月30日
効力発生日	平成25年10月1日

④資本金の額の変更

今回の株式分割に際しまして、資本金の額の変更はありません。

⑤新株予約権行使価格の調整

株式の分割に伴い、当社発行の新株予約権の1株当たりの行使価格を、平成25年10月1日以降、以下のとおり調整しております。

	株主総会決議日	調整前行使価格	調整後行使価格
第1回新株予約権	平成16年3月30日	15,578円	156円
第3回新株予約権	平成17年3月24日	25,202円	252円

(3) 1株当たり情報に及ぼす影響

1株当たり情報に及ぼす影響は、(1株当たり情報)に反映されております。

(4) 単元株制度の概要

①新設する単元株式の数

単元株制度を採用し、単元株式数を100株としております。

②新設の日程

効力発生日	平成25年10月1日
-------	------------

(重要な事業の譲渡)

当社は、平成25年8月29日開催の取締役会決議に基づき、平成25年10月1日付で当社のシステム事業の一部をクオ리카株式会社に譲渡いたしました。

(1) 事業譲渡の理由

当社は、選択と集中により既存事業の見直しを行う中で、システム事業においては中小型店向けのソリューションに経営資源を集中することで、他の事業とのシナジーを発揮できると判断いたしました。

これに伴い、大手飲食事業者向けに売上管理・受発注・予約・顧客管理業務を行うASPサービスを、ITサービスの提供に強みを持ち、同様のサービスにおいて大手企業への導入実績があるクオ리카株式会社に譲渡することといたしました。

(2) 譲渡する相手会社の名称

相手会社の名称：クオ리카株式会社

(3) 譲渡する事業の内容、規模

① 譲渡する事業の内容

大手飲食事業者向けに売上管理・受発注・予約・顧客管理業務を行うASPサービス事業

② 譲渡する事業の規模

直近期の売上高：486百万円（平成25年3月期）

(4) 譲渡する資産・負債の額

固定資産 30百万円

(5) 譲渡の時期

平成25年10月1日

(6) 譲渡価格

38百万円